

湖南学園新聞

学校概要



【学校名】鳥取市立湖南学園
 【所在地】鳥取市六反田1番地の5
 【校長名】岡田年史
 【児童生徒数】141人
 【校訓】「切磋琢磨」
 【学校教育目標】心身を鍛え、知を磨き、ふるさとへの誇りと高い志をもつ子の育成

【沿革】
 2018(平成30)年度 義務教育学校としてスタート
 19(令和元)年度 学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業の発表
 20(令和2)年度 特設教科「拓」スタート、定期テストから単元テストへ移行
 21(令和3)年度 特設教科「拓」充実期、GIGAスクール本格始動
 22(令和4)年度 特設教科「拓」発展期、コミュニティ・スクールと「地域学校協働活動の一体的な推進」で文部科学大臣表彰受賞



課題解決し、活性化へ

パンチの作製やアドバイス受け、宣伝活動も

特設教科「拓」では、地域を素材として、各ブロックで活動として、パンフレットと写真集を作成して道の駅で配布したり、温泉会館の看板を「銘木工房ゆら木」のアドバイスを受け、解決方法について学習を進めていく。

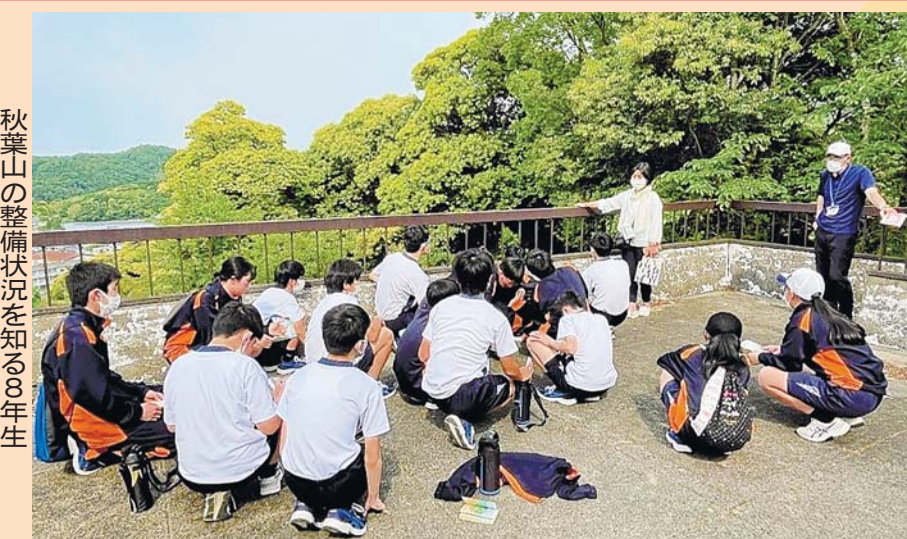
9年生は、湖南地域の「クタクタ」のすけくんを題材として、パンフレットと写真集を作成して道の駅で配布したり、温泉会館の看板を「銘木工房ゆら木」のアドバイスを受け、解決方法について学習を進めていく。



宣伝活動を行う9年生

地域を知り、生き方を考える

拓 ひらく



今年度4、5月に8年生が旧湖南中学校の活用状況、吉岡温泉町内の秋葉山の整備状況、吉岡温泉の現状について確認したほか、湖南地区についての歴史講話を聞くなどした。

旧湖南中学校は「銘木工房ゆら木」「sada工房」「山川塾」などとして活用されている。「銘木工房ゆら木」は、表飛悠斗さんがハンドメイドで作品を作っている。「sada工房」では、貞谷隆子さんが折り紙のワークショップを開いており、8年生も体験した。「山川塾」では、山川賀壽雄さんが木彫り教室を行っており、過去には著名なスポーツ選手も木彫りを体験した。秋葉山は登山道が整備され、近くの温泉会館一ノ湯でカードをもらってス

地区の現状、歴史学ぶ

タンブラリーができるようになった。西国三十三所巡りの寺院のスタンプが用意されているため、県外の有名なお寺にお参りしたような気分にもなる。また、新たに整備された展望台からは、湖山池がきれいに見えるようになった。

歴史講話では、湖南地区に中世の山城がいくつもあることが分かった。特に防己尾城では、羽柴秀吉軍に攻められたとき、2度も追い返し、千成瓢箪の馬印を奪ったことを知った。全校遠足で行っている身近な場所に貴重な歴史があることが分かった。

これらの活動を通し、旧湖南中学校、吉岡温泉街を未来に残し、湖南地区を盛り上げるための案を考えていきたい。

8年生が作った新聞です

こなん駅伝

旧湖南中学校を中継点として、吉岡温泉街を走る「こなん駅伝」を2022年10月14日、今年度も開催した。赤・白・黄・緑の四つの色別チームをさらに二つに分けた8チームが1位を目指して走った。



タスキをつなぐ児童生徒

区間にはA・B・C・Dの四つのコースがあり、それぞれ1500m、1200m、800m、500mである。学年が上がるごとに走る距離が長くなるが、どの児童生徒も自分の全力を尽くして走っていた。当日は平日にもかかわらず、多くの保護者・地域の方が応援に駆け付けて

懸命に走り、絆深める



先輩が後輩たちに教える姿とほっと君(右)の様子。校舎内を回る際に、上級生が下級生をリードし、班長を中心に児童生徒全員が楽しく協力しながら種目を行う義務教育学校ならではの姿が見られた。

体育祭

暑い夏の全校ソーラン

湖南学園のグラウンドで2022年7月2日、体育祭が行われた。体育祭では、赤、白、黄、緑の4色に分かれて順位を競い「コナンピック」「全校リレー」「色別種目」などに取り組んだ。「コナンピック」では、初等・中等・高等に分かれ、玉入れ、馬跳び、ねこ車リレーを行った。毎年、1カ月前くらいから色別リーダー・執行部が中心となり、種目内容を決めている。初めはルールが複雑なこともあり、思うようにいかなかったが、改良を重ね、児童生徒全員が楽しめる種目とすることができた。また、全校演技の「全校ソーラン」は、毎年行われており、ソーランリーダーを中心に、1カ月の練習で積み重ねてきたものを本番で披露した。



最後の決めポーズをそろえる児童生徒

最後の決めポーズの部分では何度も練習を重ね、成功することができた。練習の段階から、高等ブロックの生徒が、初等ブロックの児童に細かいところまで教えるなど、本校ならではの取り組みとなった。どの種目も1～9年生が最後まで全力で取り組み、児童生徒全員の絆が強まった体育祭になった。

全校遠足

協力し合い 10種目挑戦

校内オリエンテーリング

湖南学園開校当初から行われていた伝統の「たてわり全校遠足」が、今年度も4月に実施された。企画・運営は4・7・8・9年の各色別のリーダーが行った。内容は、「ジャベール投げ」「十秒ストップ」「的当て」「ほっと君(湖南学園マスコットキャラクター)を探せ」などの10個の種目を時間内にまでできるだけ多く回るというもの。校舎内を回る際には、上級生が下級生をリードし、班長を中心に児童生徒全員が楽しく協力しながら種目を行う義務教育学校ならではの姿が見られた。

児童生徒会

学園祭・執行部 オープニング動画 工夫凝らして制作



学園祭が2022年11月3日、体育館で行われた。各ブロックの発表や3学年ごとの合唱、吹奏楽の演奏などが行われた。執行部としては、学園祭のオープニングをNewspaper in Educationに決め、みんなで協力し、新しい幸せをつくらうという思いを込めた。執行部は、オープニングも担当し、スローガンに込めたように、みんなに幸せになってほしいと自分の得意なスポーツのソフトテニス・バレーボール・野球・バスケットボールの神業を撮影した。ソフトテニスではサーブラインにペットボトルを置き、対角線のサーブラインからボールを打ち、ペットボトルに当たれば野球では20m以上離れた場所からボールを投げて見事に一発で当たった。この動画を制作するために1週間もかかったが、執行部の児童生徒は諦めず、一生懸命取り組んでいた。執行部が行ったオープニングは、子どもたちが、執行部の生徒は児童生徒や保護者、地域の方が幸せになれるようにいろいろな工夫をし、時間をかけて作ったのでとても達成感があった」と話していた。



議事の承認を行う児童生徒

思いを込めた。執行部は、オープニングも担当し、スローガンに込めたように、みんなに幸せになってほしいと自分の得意なスポーツのソフトテニス・バレーボール・野球・バスケットボールの神業を撮影した。ソフトテニスではサーブラインにペットボトルを置き、対角線のサーブラインからボールを打ち、ペットボトルに当たれば野球では20m以上離れた場所からボールを投げて見事に一発で当たった。この動画を制作するために1週間もかかったが、執行部の児童生徒は諦めず、一生懸命取り組んでいた。執行部が行ったオープニングは、子どもたちが、執行部の生徒は児童生徒や保護者、地域の方が幸せになれるようにいろいろな工夫をし、時間をかけて作ったのでとても達成感があった」と話していた。

児童生徒総会 今こそ限界突破 新たな目標決定

児童生徒会のリーダーたちが湖南学園の目標を提案する「児童生徒総会」が2022年11月10日、体育館で行われた。児童生徒会のリーダーたちが「今こそ限界突破」に決めた。自分自身の成長に、何事も諦めずに挑戦し、自分自身に克つて限界突破し、学園全体が成長し、進化し続けたいという思いを込めた。それぞれの委員もこのスローガンを達成するための目標を立てた。初めて全体の場で発言する8年生も多く、緊張しながらも堂々と自分の考えを述べた。児童生徒会長は「児童生徒全員で、リーダーが発表した目標を達成できるように頑張っていきたい」と決意表明した。

本学園は、鳥取市中心部より西に約10km、湖山池南西に位置し、山陰ジオパーク域内の自然に囲まれた環境にある。校区にある吉岡温泉は千年以上の歴史があり、その温泉を学園に引き、校地内に全国でも珍しい足湯がある。2008(平成20)年4月に鳥取県内初の小中一貫校として「湖南学園」が開校し、その翌年には施設一体型の一貫校となった。そして、18(平成30)年度には、義務教育学校として新たな歴史の幕を開けた。1年生から9年生までが在籍し、開校当初から

未来を拓く 「ふるさとキャリア教育」

学年段階の区切りを初等4年・中等3年・高等2年とするブロック制を導入している。また、たてわり活動にも取り組み、全校児童生徒を赤・白・黄・緑の四つの色別チームに分け、さまざまな活動を行い、毎年、総合優勝へグランドチャンピオントロフィーを争っている。20(令和2)年度には、コミュニケーション科に代わる新しい特設教科「拓」をスタートさせ、湖南のさまざまな地域資源を題材として探究的な学習を、地域の方々と協働しながら学び、よりよい地域や自己の生き方を考え、未来を拓く「ふるさとキャリア教育」に全学年が取り組んでいる。